

取り組みの柱 1 「地球環境にやさしいまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の 現況値	目標値	実績値 (2020年度)	当該年度における 目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
1-①	環境政策課	温室効果ガス排出量	市内から排出される温室効果ガスの排出量。「郡山市地球温暖化対策実行計画<<区域施策編>>」に定める目標値とします。 なお、目標値の変更があった場合には、その目標値によるものとします。 ※ 国が公表する各種統計データを待つ必要があることから、3年前の数値が最新のものとなります。 ※2020年12月に、算定に使用する「都道府県別エネルギー消費統計（1990年度から2018年度分）」が改訂となったため、計画策定時の数値及び目標年度の数値を変更しました。	3,169千 t -CO2 (2013年度)	2,230千 t -CO2 (2020年度)	2,861千 t -CO2 (2018年度)	2,345千 t -CO2	△	郡山市における温室効果ガス排出量は、基準年度比で3.8%削減となり、目標は達成できませんでした。民生家庭部門及び民生業務部門は基準年度と比べそれぞれ6.6%、0.9%減少しているものの、2020年度の目標達成には厳しい状況です。運輸部門については、基準年度と比べ31.9%と大幅に増加しており、郡山市内の自家用車の保有台数が基準年度に比べ16%増えたことが要因と考えられます。目標達成の可能性が低い状況となっていることから、今後は2030年度に新車販売台数に占める次世代自動車の割合を90%とした、郡山市気候変動対策総合戦略に基づき、FCV等の次世代自動車の導入を推進するとともに、クールチョイス啓発活動等により低炭素型の行動変容を促していきます。
1-②	環境政策課	市の事務及び事業による温室効果ガス排出量	市の事業により排出される温室効果ガスの排出量。「環境にやさしい郡山市率先行動計画」に定める目標値とします。 なお、目標値の変更があった場合には、その目標値によるものとします。	40.61千 t -CO2 (2015年度)	34.38千 t -CO2 (2020年度)	43.63千 t -CO2 (2020年度)	34.38千 t -CO2	×	温室効果ガス排出量は、基準年度比で約6.4%増となり、目標は達成できませんでした。温室効果ガス排出量が昨年度より約7.8%増加した要因として、令和元年東日本台風の発生による避難所の開設や浸水被害による公共の災害廃棄物焼却が挙げられます。台風の影響で増加したエネルギー使用量を除いた場合は、基準年度比9.1%、昨年度比1.3%減少していることから、今後におきましても、公共施設のLED化や職員に対する省エネ意識の啓発等に継続して取り組んでいきます。
1-③	環境政策課	電力消費量に占める再生可能エネルギー導入割合	市内の電力消費量を2011年度比で20%以上削減することを目指すとともに、20%の省エネ効果を加味した電力消費量の30%を再生可能エネルギーとする「郡山市エネルギービジョン」に定める目標値とします。 ※国が公表する各種統計データを待つ必要があることから、3年前の数値が最新のものとなります。 ※2020年12月に、算定に使用する「都道府県別エネルギー消費統計（1990年度から2018年度分）」が改訂となったため、計画策定時の数値及び目標年度の数値を変更しました。	20% (2011年度)	41% (2020年度)	33% (2018年度)	33%	○	2011（平成23）年度より太陽光発電が72,850千kwh、バイオマス発電が81,723千kwh増えたこと、また、市内における電力消費量が190,968千kwh減るなど減少傾向にあることから、再生可能エネルギー導入割合は計画どおりに進んでいます。今後も再生可能エネルギー導入拡大に向けて取り組んでいきます。
1-④	建築課	省エネルギー・再生可能エネルギー設備が導入された市有施設数	新設や改修を予定している市有施設に対し、省エネルギー設備または再生可能エネルギー設備の積極的な導入に努めます。目標値は新築、改修する全ての施設に対しての導入を目指します。	—	新設、改修する 施設の100% (2021年度)	100%	100%	◎	新設及び改修工事を実施した市有施設23施設全ての照明をLED化（省エネ）しました。 今後も同様に省エネルギー設備及び再生可能エネルギー設備を積極的に導入していきます。 （施設一覧については別紙のとおり）

取り組みの柱 2 「資源が循環するまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の 現況値	目標値	実績値 (2020年度)	当該年度における 目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
2-①	3R推進課	1人1日当たりのごみ排出量	市民1人が1日に出すごみの量（集団資源回収を除く）。「郡山市一般廃棄物処理基本計画」に定める2027年度の1人1日当たりのごみ排出量を現況値から20%削減する計画値に合わせた目標値とします。	1,141 g (2016年度)	1,036 g (2021年度)	1,127g	1,057g	×	新型コロナウイルス感染症の影響による家庭での生活時間の増加や廃棄物の発生等により、前年に比べ生活系ごみが増加したため、1人1日あたりのごみ排出量は昨年度（1,110g）より増加し、2020年度の計画目標値を達成できませんでした。今後は、啓発事業やコンポスト貸与事業等の更なる推進を図るとともに、分析・調査を踏まえた効果的な施策についても検討してまいります。
2-②	3R推進課	再生利用率	市で回収する再生利用率。（分別収集回収量＋破砕回収金属量＋集団資源回収量）/（ごみ総量＋集団資源回収量） 「郡山市一般廃棄物処理基本計画」に定める2027年度の再生利用率を26%とする計画値に合わせた目標値とします。	10.3% (2016年度)	17.5% (2021年度)	10.9%	16.1%	△	町内会や子ども会等が実施する集団資源回収量は減少していますが、行政による資源物の回収量が前年度より増加しているため、再生利用率としては前年度より0.7%増となりました。しかし、その伸び率は鈍く、今後はさらなる分別の徹底を周知し計画値達成に取り組んでいきます。

取り組みの柱 3 「自然と共生できるまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の 現況値	目標値	実績値 (2020年度)	当該年度における 目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
3-①	環境政策課	カッコウの生息数	郡山市の鳥カッコウの生息数。カッコウの生息状況は、自然環境の状態を表すひとつの目安となることから、確認された数の現状維持を目標とします。	178羽 (2016年度)	現状維持 (2021年度)	—	現状維持 (178羽)	△	日本野鳥の会郡山支部による「カッコウ調査」の継続が困難になり、2020（令和2）年度より現況値の把握ができない状況のため、第四次環境基本計画においては、新たな指標を検討してまいります。
3-②	林業振興課	間伐実施面積	国有林を除く市内民有林の年間の間伐実施面積。森林の適正な整備・保全の推進により、水源かん養や山地災害防止など森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、2025年度の間伐実施面積を現況値の1.5倍とする整備計画に合わせた目標値とします。 ※ 福島県が公表する統計データを待つ必要があることから、2年前の数値が最新のものとなります。	232ha (2015年度)	302ha (2021年度)	220ha (2019年度)	278ha	△	森林整備を進めるに当たっては、所有者の経営意欲の低下や所有者不明の森林の増加、境界未確定の存在や担い手不足等が大きな課題となっていますが、今後も引き続き、本市が事業主体で実施する「ふくしま森林再生事業」等により間伐を推進し、森林の適正な整備・保全を図ります。
3-③	園芸畜産振興課	有害鳥獣による農産物の被害面積	有害鳥獣による農産物の被害面積。有害鳥獣被害の減少が、森林や農地の保全につながることから、「郡山市鳥獣被害防止計画」に定める目標値とします。 なお、目標値については当該防止計画の変更と併せて見直すものとします。 ※H30(2018)に鳥獣被害防止計画を変更しました。計画変更に伴い計画策定時（H29現況値）の数値及び目標年度の数値を変更しました。	5.7ha (2017年度)	4.6ha (2021年度)	4.86ha (2020年度)	4.8ha	○	目標達成には至りませんでしたが、イノシシ等鳥獣の生息数が市内全域で増加している中で、被害面積を抑えることができていると考えます。 今後も「生息環境管理」「被害防除対策」「個体数管理」を組み合わせながら、地域ぐるみでの総合的な防止対策を実施をしていきます。

取り組みの柱4 「健康で安心して暮らせるまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の現況値	目標値	実績値 (2020年度)	当該年度における 目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
4-①	環境保全センター	工場・事業場からの排出ガス基準達成率 (大気汚染防止法)	大気汚染防止法に基づき、工場・事業場から排出されるガスの基準達成状況。	99% (2016年度)	100% (2021年度)	99% (2019年度)	100%	○	揮発性有機化合物排出施設については目標達成しましたが、ばい煙発生施設については目標達成しなかったため、今後は、ばい煙等を排出する工場及び事業場へ対しての更なる指導及び監督に取り組んでいきます。
4-②	環境保全センター	市内の河川水質の環境基準達成率	市内の河川（7地点）における水質調査地点でのBOD測定値の環境基準達成状況。 阿武隈川（阿久津橋）、五百川（石筵川合流後）、逢瀬川（馬場川合流前・幕ノ内橋上流・阿武隈川合流前）、大滝根川（阿武隈川合流前）、谷田川（谷田川橋）	7地点中6地点で 環境基準値以下 (2016年度)	全地点で 環境基準値以下 (2021年度)	環境基準値以下 (2020年度)	全地点で 環境基準値以下	◎	市内の河川毎のBOD測定値は、長期的には年々低下し、ここ数年はほぼ横ばいとなっています。今後も市内の河川の水質汚濁状況を監視するために、定期的な調査に取り組んでいきます。
4-③	環境保全センター	ダイオキシン類環境基準達成率	大気、河川の水質、河川の底質、地下水、土壌におけるダイオキシン類の環境基準達成状況。	環境基準値以下 (2016年度)	環境基準値以下 (2021年度)	環境基準値以下 (2020年度)	環境基準値以下	◎	既に目標年度における目標を上回っていますが、今後もダイオキシン類を排出する可能性がある廃棄物焼却等を設置する工場及び事業場へ対しての指導及び監督に取り組んでいくとともに、環境中のダイオキシン類の状況について調査を実施していきます。

取り組みの柱5 「環境を思いやる人を育むまちづくり」

No.	所管課	環境指標	環境指標説明	計画策定時の現況値	目標値	実績値 (2020年度)	当該年度における 目標値	評価	評価結果に対する理由及び今後の取り組み等
5-①	環境政策課	環境啓発イベントの参加者数	市が主催する環境啓発イベントの参加者数。イベントを通じて、多くの市民に環境意識の高揚を図るため、現況値の2倍の参加者数を目標値とします。	1,100人 (2017年度)	2,200人 (2021年度)	879人	1,925人	△	新型コロナウイルス感染症の影響で予定していたイベントが中止になったこともあり、2020（令和2）年度の計画目標は達成できませんでした。今後は福島県地域温暖化防止活動推進センター等と連携した活動を行い、イベント等を通じて、環境意識の醸成を図ります。

◎：目標年度における目標を既に上回っている。
○：このまま取り組みば、目標達成の可能性が高い。
△：このままでは、目標達成にはかなりの努力が必要。
×：このままでは、目標達成の可能性が低い。